©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

c081-014-020

科学の進歩と世界連邦

三十七、十一、九　二度、京にて

湯川秀樹

(1)

世界連邦運動は、第二次世界大戦直後に始まったものである。「夢」に過ぎないと考えた人も少なくない。世界連邦という考え方は、人類に問題解決の方法をつくりだすものである。世界連邦への道は、科学の進歩、第一の道、地球が狭くなってしまった。

交通・通信の発達は、一つの世界となるための前提条件である。しかし、それだけでは、第二の道、相互理解、相互信頼、相互尊重、連帯感、連帯感、連帯感の問題である。

世界の統一は、人類の運命の問題である。

人類が一つのこと、ぜんぶ、ということ。

（岩波書店原稿用紙）

アンバランス。

科学の発展の結果、人類の運命を左右する力を持ってしまった。

科学の進歩は、人類の運命を左右する力を持ってしまった。

科学の進歩は、人類の運命を左右する力を持ってしまった。

科学の進歩は

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

[2]

キューバ危機の問題は第一回しか解決の解答しかない家庭の解決は政府の解決は政府の解決は家庭の解決

この際は問題の解決はやっている

解決しなければならないと思っている

この際は問題の解決は家庭の解決は政府の解決

家庭は政府の解決は家庭の解決

第十回の[illegible]

第九回の[illegible]

世界連邦へ

世界連邦は[illegible]

世界連邦は[illegible]

世界連邦は[illegible]